各教科における
一人1台端末を活用した授業実践の充実
－所属校教員が「６つの学習活動」に取り組むためのアプローチ－

学籍番号　219102
氏　　名　井崎　絵梨
大学院主指導教員　木原　俊行
大学院副指導教員　田中　滿公子

１．一人１台端末活用状況の実態把握

所属校が位置するS市では、児童・生徒一人１台の学習者用端末（以下、一人１台端末）が、R２年１１月から順次、小中学校全校に配備された（所属校においてはR３年２月に配備された）。R３年度がスタートして、配備直後に起こっていた不具合が少しずつ解消されて環境が整ってきたが、所属校教員が配備された一人１台端末を活用している様子がみられないように感じていた。そのため、所属校でのタブレット端末の活用実態をより明確に把握するために、アンケート調査を実施した。アンケート調査の結果から、所属校において一人１台端末の活用はあまりされていないということが明確になった。

S市の求めている、GIGAスクール構想の実現（豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として自立的に生きる力の育成）に至るためには、各校において教員が一人１台端末を積極的に活用することが必要不可欠であると考える。そのために、筆者が授業実践をしていくだけでなく、実践的リーダーとなり、他の教員に活用の仕方を知ってもらう必要があると考えた。すなわち、本研究では、所属校教員の一人１台のタブレット端末を活用した授業の実践を推進することを目指す。

２．学習活動による一人１台端末活用場面の設定

まずは、先行研究から、各教科での様々な活用例とそれに基づき生徒にどのような力をつけることができるのかを学び、所属校の教員に対してのアプローチの仕方を考えた。その結果、「この教科で、この教材を、このような時に使えば、このような力が育成される授業になる」という「この」を各教科で具体化することが、一人１台端末活用の基本であると考えるに至った。そして、一人１台端末を活用するタイミングに関して、「調べる」「つくる」「考える」「発表する（説明する）」「記録する」「ふりかえる」という「６つの学習活動」場面を設定することにした。校内におけるこれらのアプローチの浸透に、校内組織である学力向上委員会で取り組んでいく。

３．一人１台端末を活用した学習のための実践
Ｒ３(2021)年度

Ｒ４年２月に校内研究授業を実施することにした。一人１台端末を効果的に活用した授業デザインを提案するため、まずは筆者が授業者となり、学習活動場面「考える」を授業化した。

また、参加希望制の勉強会を２回実施した。１１月３０日に実施した第１回勉強会では、５名の教員で学習ソフト「オクリンク」の活用に関して学んだ。「オクリンク」は「６つの学習活動」場面においても汎用性が高いものであるからだ。１２月２７日に実施した第２回勉強会では、３名の教員と「Microsoft　Forms」の活用に関して学んだ。「Microsoft　Forms」は第１回勉強会の参加者がふりかえりアンケートに興味があると回答していたものである。

４．一人１台端末を活用した学習のための組織的実践
Ｒ４(2022)年度

Ｒ４年６月２３日に校内研修を実施した。この研修では、講師から「６つの学習活動」場面ごとの授業実践例を紹介してもらった。それを活かして、所属校教員一人ひとりに、１０月までの３ヶ月間で行う予定の授業で、一人１台端末を活用した学習場面をどのようにデザインするかを考えてもらい、そのデータを共有ファイルに入力してもらった。

また、１１月４日に研究授業を実施した。所属校の第１学年の教員団が授業者となり、道徳の授業で「考える」学習活動を授業化してもらった。その際には、「ムーブノート」という学習ソフトを活用してもらった。

Ｒ３年度の実践に引き続き、希望制の勉強会を２回実施した。５月１９日に実施した第１回勉強会では、５名の教員で、Ｒ３年度の校内研究授業で用いられた学習ソフトである「ムーブノート」に関して学んだ。１０月４日に実施した第２回勉強会では、５名の教員で、授業実践の報告会をした。校内研修でデザインした、学習活動の実践を３名の教員が報告し、交流した。

５．一人１台端末の活用状況の向上と更なる課題

本研究の成果を確認するために、所属校教員に対してアンケート調査を実施した。その結果、授業で一人１台端末を活用していると回答した教員数が、Ｒ３年度の結果と比較すると、５７％から８５％へと向上したことがわかった。また、管理職へのインタビューも実施した。その結果、所属校教員の授業を観に行くと活用が増えたことがわかる、積極的に活用しようという意識が見えるというコメントが得られた。管理職は、「校内研修」「研究授業」「勉強会」を連続・発展させることが所属校教員の意識変容や行動変容につながっていると感じるとも述べられた。

所属校教員の一人１台端末を活用した授業実践のさらなる充実が求められる。そのためのR5年度の所属校教員へのアプローチとして、Ｒ４年度と同様に「校内研修」「研究授業」「勉強会」の関連性を高めるアプローチを構想し、実践したいと考える。